

先日、飛行機からきれいな積乱雲を見ました。積乱雲は乱気流で、パイロットにとっては大敵です。パイロットの目には気流が、澄んだ空が見えます。雲にはたくさんの種類がありますが、パイロットは雲の性質や風の向きなど多くの情報から判断して、安全に飛行し、着陸できるように働いています。車の運転は「飛び出してくるかもしれない」「急停車をするかもしれない」、リスクがあることを予測しながら行くことを教えられます。しかし、飛行機は「かもしれない」運転をしません。多くの情報から最善を選んで飛んでいる故に、最も事故の少ない乗り物です。

■ 災害が起こって

私達は自ら進むべき道を選んで、飛んでいるのでしょうか。ひとまずつつこんでみる…、気付いてはいるが、気にしない…。

災害が起こって感じました。これは危険、なにかがおかしい、警告として感じるのに、正しく判断して行動することができず、取り返しがつかなくなつてから後悔する、そして、人のせいにする、そんなことの繰り返しです。

祈り、神様の目から知恵を得ることのできる私達は、取り返しがつかなくなる前に、本当にこの道でいいのか見極めなければいけません。私達には感情と良心があり、感情と良心はいつも向き合っています。良心があるから感情を制御することができる、また感情があるから良心を保つことができます。感情が良心を無視し続けるようになると、乱気流とわかっていて積乱雲に飛び込むような飛行機のもので、私達が正しく判断できるために、すべきことは祈ること。祈りより行動が先になつてはなりません。

■ ダビデの純粋な姿

少年であったダビデが、大きな敵ゴリアテに向かった時、ダビデには「神様が必ず助けてくれる！」確信があったので、恐れず勇敢に立ち向かい、石投げで倒しました。イスラエルを守るために戦ったのに、その後、立場を脅かされることに恐れられたサウル王に命を狙われることになりました。どんな境遇に置かれても神様を求めるダビデは純粋でした。先日被災地のための募金活動をしました。子ども達は純粋な心で、街行く人々にお願ひしました。誰かのために純粋な心で動く彼らはとても大きな力を持っています。「人から評価されたい」「見返りがほしい」そんな不純な動機で人が動くとき、得るものがないと行動に価値がなくなるので、続きません。純粋な心で行動する時には何があつても負けないことを現していました。

■ 問題が起きた時

ハドソン川に不時着して乗客を救った飛行機事故を覚えているでしょうか。パイロットはたくさんの情報から、状況を判断し、最善を尽くしました。パイロットは飛行ルートを正確に記憶し、多くの情報を得ながら、管制官の指示を受けて、状況を見極めて考えました。では、私達に問題が起こった時を考えてみましょう。人生に問題が起きると、狭い所に、暗い所に入っていくように思います。打ちひしがれて、自分だけが悲しみの中にいて、誰にも会いたくなくて、自分を責めてしまうようなことがないでしょうか。

『彼らは私のわがわがの日に私に立ち向かった。だが、主は私のささえてあつた。主は私を広い所に連れ出し、私を助け出された。主が私を喜びとされたから』(詩篇 18 : 18,19) 信仰の父であるアブラハムが悲しみの中にあつた時、神様は空の星を見せました。

「主は静けさの中に住まう」とあるのは悲劇の中、暗い所で小さくなっていることではありません。たとえ荒れた海の中でも、雷が鳴り渡るような中でも、平安でいることができる、心の静けさです。

■ ①あなたの覆いから出でよ

今まで生きてきた価値観の殻、私自身が大きくなった時には、やどかりのように、殻から出て、大きな殻に移らなければいけません。小さな殻にとどまっていたら、育つことはできません。アブラハムは神様から「子孫が増えて空の星のようになる」と言われましたが、すぐにそうなったわけではありません。神様は私達に大きなビジョンを見せてくれることがあります。そこにたどり着くためのプロセスは探さなければいけません。探すために小さな殻から出ることを決断するのは私達自身です。決断したとき、神様は必ず次につながる道を用意してくれています。光があるところに出なければ道は見えないままです。

■ ②悪に機会を与えない

ブラザーローレンスという修道士がいました。戦争で負傷し、障害をもって生まれました。教会で位の低い身分で30年間、皿洗いの仕事をしました。地位もなく、目立つ働きもなかった彼ですが、国王をはじめ多くの人が頼って訪れました。彼の心はプロテスタントの土台となりました。大きなビジョンが与えられたとしても、小さな働きに忠実であることを神様が望んでおられます。神様のために生きる、神様の働きを担うこと、それは自分のしたいことだけ、得意なことだけすればいいわけではありません。神様は小さなことに忠実な人に大きなことをまかせます。今置かれた場所で、小さなことに忠実な者でありたいです。

■ ③あなたは何のために？

私達は光の証者として存在しています。『神から遣わされたヨハネという人が現れた。この人はあかしのために来た。光についてあかしするためであり、すべての人が彼によって信じるためである』(ヨハネ 1 : 6,7) 光はイエス様、ヨハネは私達一人一人です。私達は地の塩のように、世の光のように生きなければなりません。エジソンは「私達の最も大きな弱点は、あきらめることである。成功するための最も確かな方法は、いつももう1回だけトライすることである。」エジソンは火事ですべてが燃えた時、「これまでの失敗がすべて燃えた」と喜びました。エジソンは最も偉大な発明家は神様であると尊敬していたので、「神様が壊したなら、神様がもっと大きなものを作ってくれるのだ！」思いました。エジソンは与えられた領域の中で、最善を尽くす積み重ねで、偉大な発明家に育つた神様の証者でした。

最後に

正しい道を進む時は、かならず、楽に通れないことが起こります。そんな時、諦めたり、人のせいにしたたり、間違つた行動を選んでしまう弱さがあります。しかし、イエス様は十字架にかけられた最期の時も、神様に「彼らをゆるしてください。彼らは何をしているのかわからないのです。」と、彼らの立場に立ち、神様に許しを乞いました。その姿をいつも覚えていたいと思います。広いところへ神様に連れ出してほしいと求めます。太陽に照らされて光る月のように、私も神様に照らされて光を映し、世の人を照らして行きたいです。